

BOB+ONE

< ビーオービープラスワン >

大掛かりな器具や化学薬品を用いるのではなく
自然な形で本来の力を取り戻す



SPAORE パウダーをバインダーに 混ぜて特殊な製法にて加工済み製品

2020年11月取得済(特許第6802940) 複数の鉱石群を用いた複合鉱石粉です。
配合に用いる鉱石群の選択および配合割合、および基材として使用している炭の製造方法が
独自であり、また、これらの技術によって製造された複合鉱石粉が発明と認められております。

脳や脊椎から発せられた命令（情報）は、電流として神経線維を伝って各部へ伝えられますが

このとき各部位の電位の変化が重要になります。電位に乱れがあると命令（情報）が正しく伝わらない原因になり

神経障害として現れます。逆に電位の乱れが整っていると末梢神経の隅々まで命令（情報）が行きわたり

伝達不良による様々な障害が軽減されたり、反射が良好になるなどの作用が期待できます。

BOB+ONE = パフォーマンスアップ



あと1秒、1センチ、1グラムにこだわるアスリートの方に



歩き仕事・立ち仕事の方に



リカバリーの質を高めたい方のリラックスタイムに



しっかり歩きたい方のウォーキングタイムに



休息の質を高めたい方に



天然温泉鉱石と穀物炭の輻射熱で自然な暖かさを

アスリートでも一般の方でも、スポーツ時には運動神経、反射神経をフルに使います。そのとき、神経の一部が情報を伝えられない状態にあったとしたら、パフォーマンスはどうなるでしょうか？
また、身体を動かすのはスポーツ時だけではなく、日常生活でも、睡眠時以外は何かと動いているものです。健康で若いうちはこうした日常生活に身体能力の不足を感じることは少ないと思いますが、年齢を重ねるにつれて、ただ歩くことや椅子から立ち上がることなどに、不自由さを感じるようになってきます。こうした状態は、実は筋肉や腱の老化だけが原因ではありません。

アスリートのパフォーマンスと同様、神経のコンディションがかかっているのです。走る、跳ぶ、投げる、といった動きをコンマ1秒でも速く、正確に行うためには、筋肉のパワーよりもむしろ神経の反射速度が重要になります。筋トレを頑張っても速いパンチを打つことはできませんよね。それは筋トレで鍛えた筋肉は役に立たない、ということではなく、単純にパンチを打つ練習をしていないから。筋肉は単純に力を発揮します。そして、その力をどのように使うかは神経が司っています。つまり、アスリートにとってもシニアにとっても、パフォーマンスを上げるには筋肉と神経の両方を鍛える必要があるということです。

とはいえ、アスリートはともかく、一般の方にとって神経を鍛えるというのはピンとこないと思います。スポーツであれば反復練習などがそれにあたりますが、日常生活においては「神経のコンディションを整える」「神経の乱れを正す」といったとらえ方でよいと思います。各部の筋肉に正しく命令を伝える、そのためには神経の乱れを正すことが重要ということです。

実際に着用したお客様のコメント

- バレー関係でのお声 -

- ★ 垂直跳び 3cm 上がった
- ★ 足が軽くなった
- ★ 練習後の疲労が減った
- ★ 踏ん張りが強くなった
- ★ ほんのりと暖かく感じた
- ★ トスが少し安定した
- ★ 腕が良く上がるようになった

実際に各バレー関係の方々に着用して頂き、コメントを頂きました。またブラックオールバランスは個人差が出ます。

- 日常でのお声 -

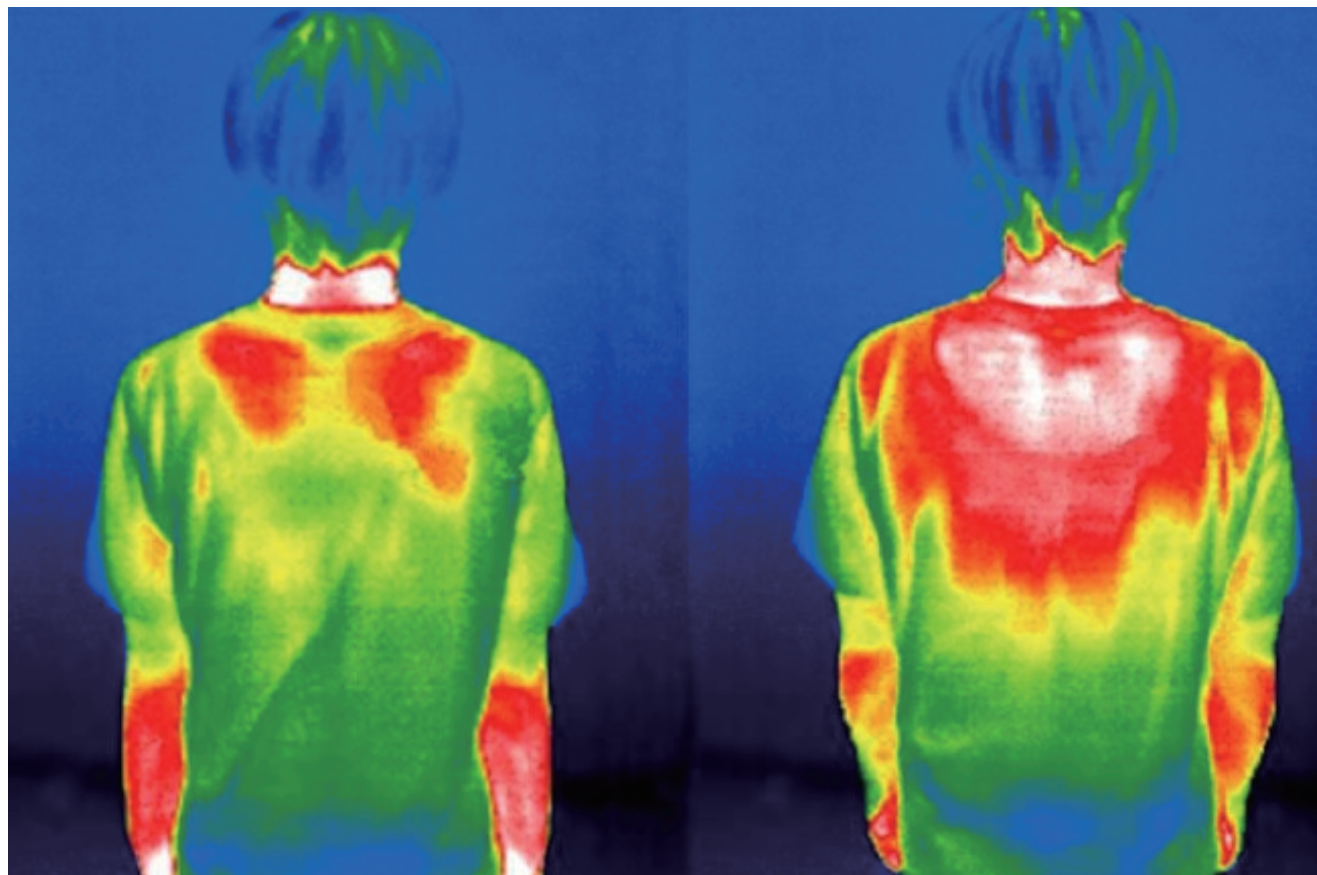
- ★ イライラが減った
- ★ 目の疲労がマシになった
- ★ 前屈が伸びた
- ★ 杖なしで歩けるようになった
- ★ 起き上がる時に楽になった
- ★ 寝起きがいつもより快調
- ★ 肩周りが楽になった

実際に個人・企業関係者の方々に着用して頂き、コメントを頂きました。またブラックオールバランスは個人差が出ます。

大掛かりな器具や化学薬品を用いるのではなく自然な形で本来の力を取り戻す

Effect 1

血流促進・温熱効果

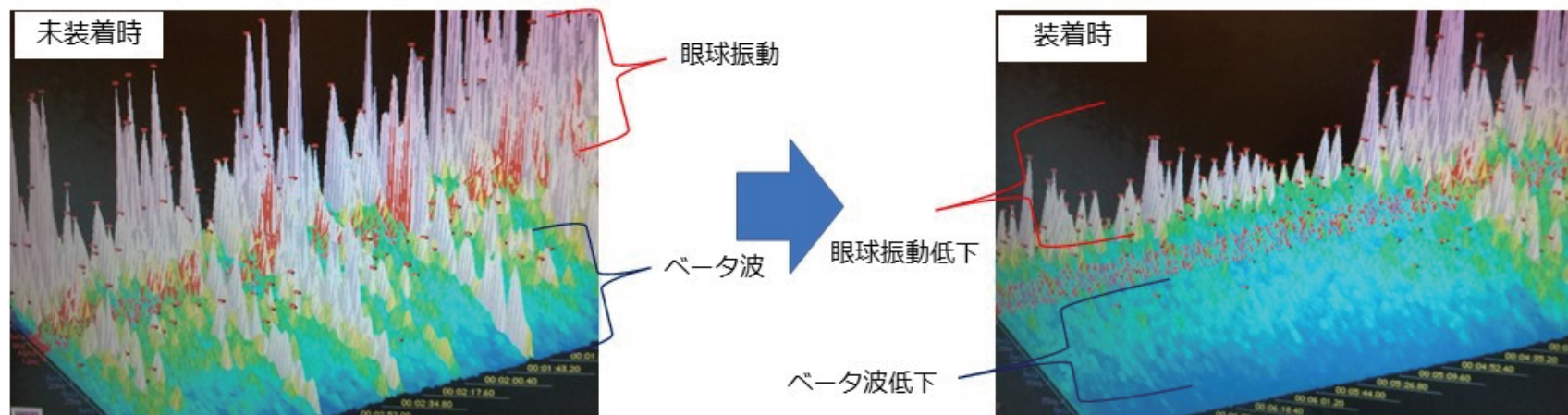


シリカ含有率の高いオーガニック炭がもたらす輻射熱とラジウム等の温泉鉱石で、広範囲の血流を促進します。

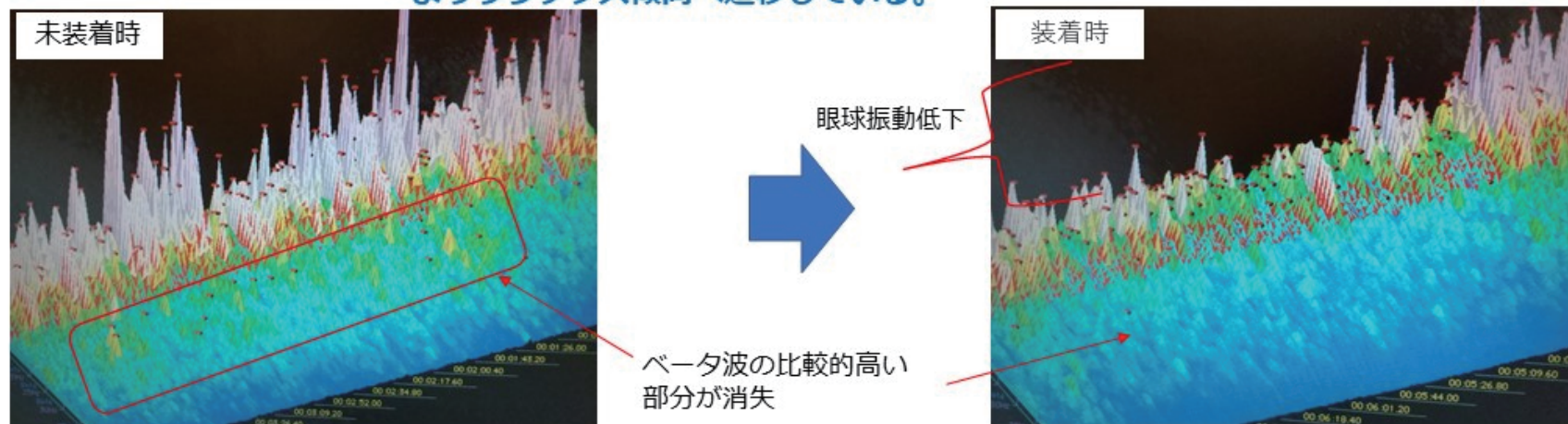
Effect 2

脳波に現れるストレス解放、リラクゼーション効果

被験者 A : 40代男性 眼球振動、ベータ波ともに著しく低下しリラックス状態に遷移している

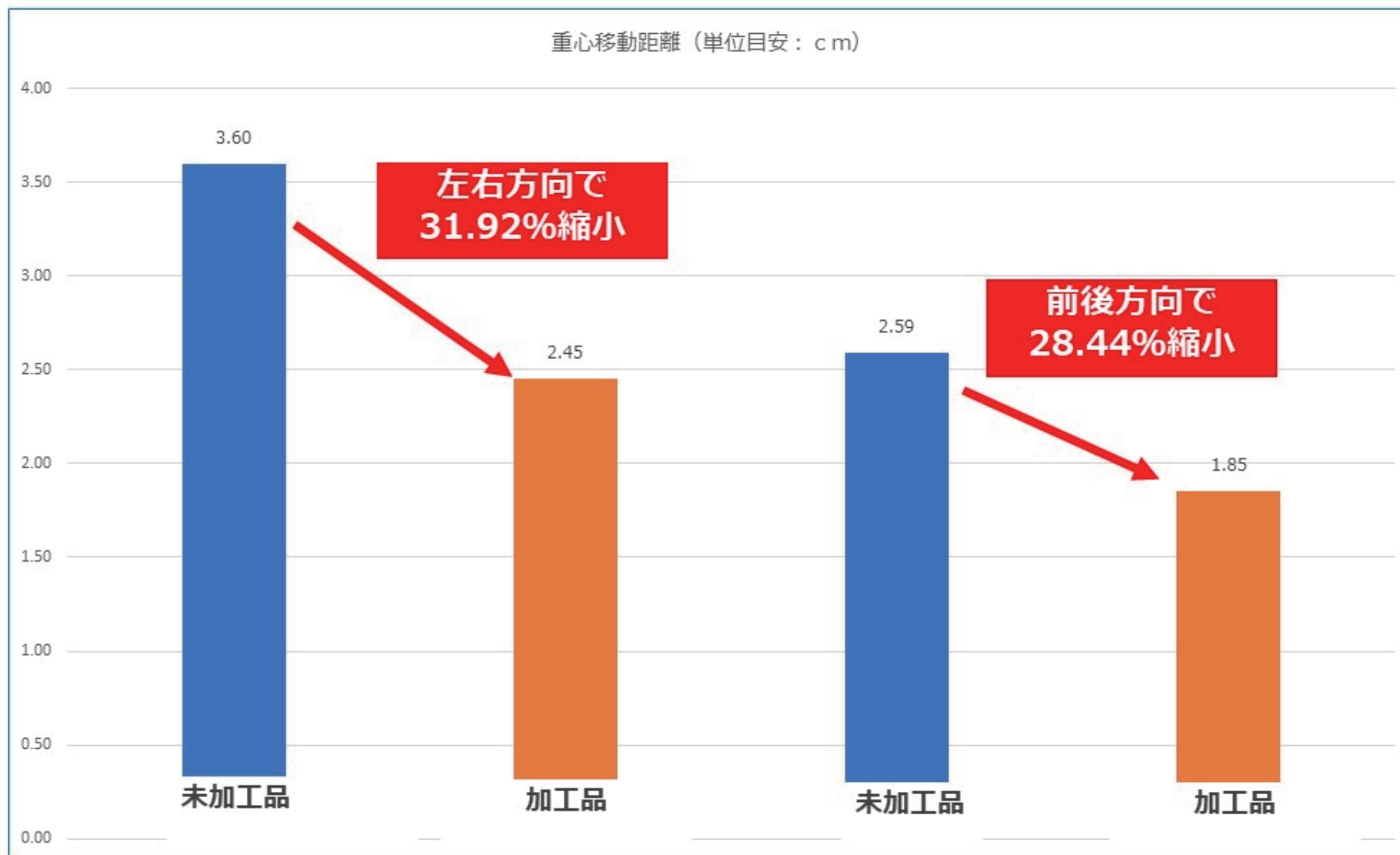


被験者 B : 50代男性 眼球振動が大きく低下。ベータ波は最初から低いが、その中でも緑、黄部分が消失しよりリラックス傾向へ遷移している。



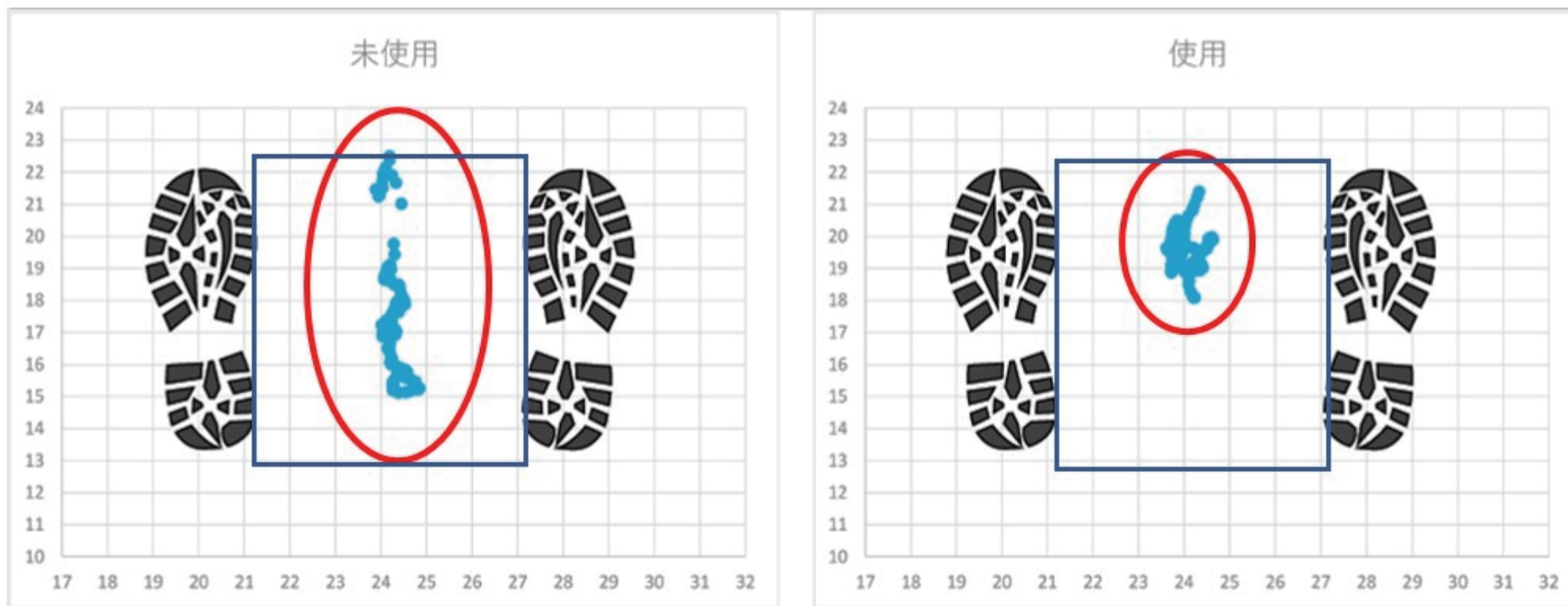
ストレスを示す脳波要素であるベータ波と眼球振動を抑制し脳・神経をリラックスさせます。

立位による重心動揺の測定で動揺の範囲が縮小バランスが強化されることが示されました



※測定数値は検査機上の「座標」であり、正確にセンチメートル単位には区切られていないため「単位目安」とした。

加重時の重心移動が小さく、バランスが安定していることが示されました



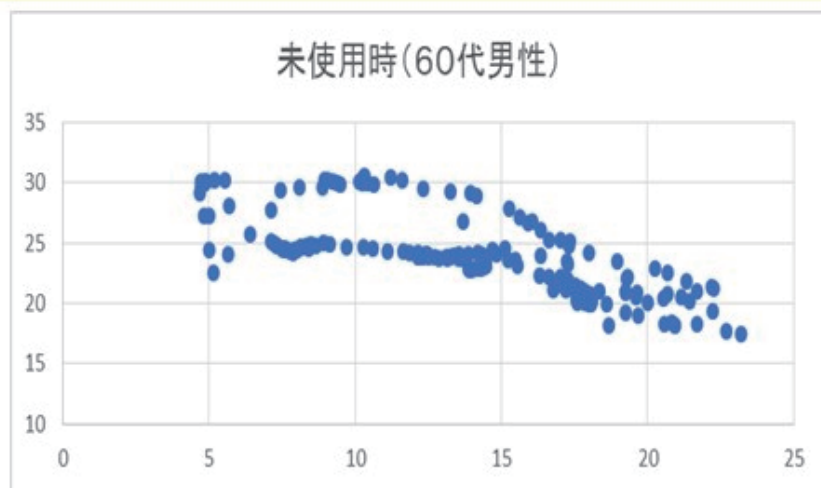
被験者全員の平均値。赤枠内の水色点が重心位置。

シート使用時には重心位置の動きが小さくなっており、加重時にバランスが崩れず、重心が安定していることが示されました。

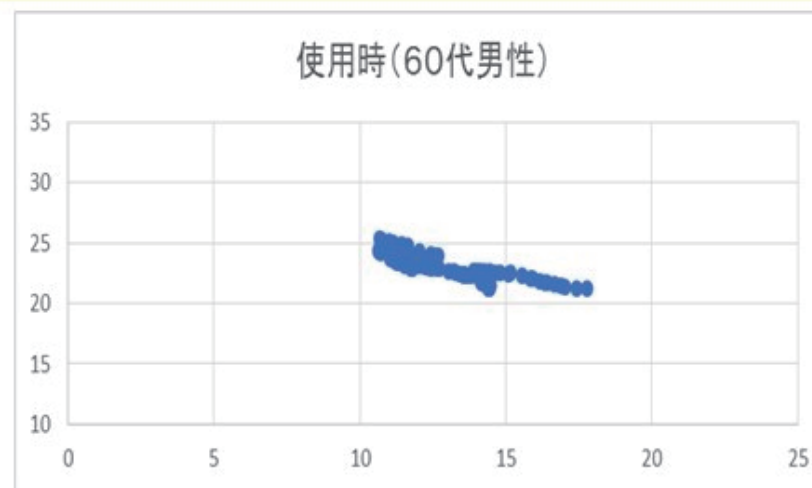
一般に、両足のつま先同士、かかと同士を結んだ線の範囲（青線）から重心位置が外れると転倒します。転倒しそうになると足を動かして上記範囲内に重心を収める動きを行うのですが、高齢者などは足の動きが遅れることで転倒リスクが高まります。

従って、加重時の重心位置の動きが小さく収まっていれば、足を動かしてバランスを取る必要がないため、つまずきや衝突など、なんらかの原因で身体に力が加わった際の転倒リスクが軽減されるといえます。

前方荷重時において、最大63.15%減少、平均52.95%の動揺範囲の減少がみられました



最前方位置：4.68 最後方位置：23.21 動揺範囲：18.53



最前方位置：10.65 最後方位置：17.77 動揺範囲：7.12 (61.58%減)

重心動揺範囲サマリ

	シート未使用時			シート使用時			
	最前方位置	最後方位置	動揺範囲	最前方位置	最後方位置	動揺範囲	減少率
10代女性A	13.23	23.27	10.04	13.53	17.23	3.7	63.15%
10代女性B	12.23	21.27	9.04	13.85	18.5	4.65	48.56%
50代女性A	9.71	18.80	9.09	11.23	15.37	4.14	54.46%
50代女性B	9.37	22.34	12.97	11.07	19.24	8.17	37.01%
60代男性	4.68	23.21	18.53	10.65	17.77	7.12	61.58%
						平均	52.95%